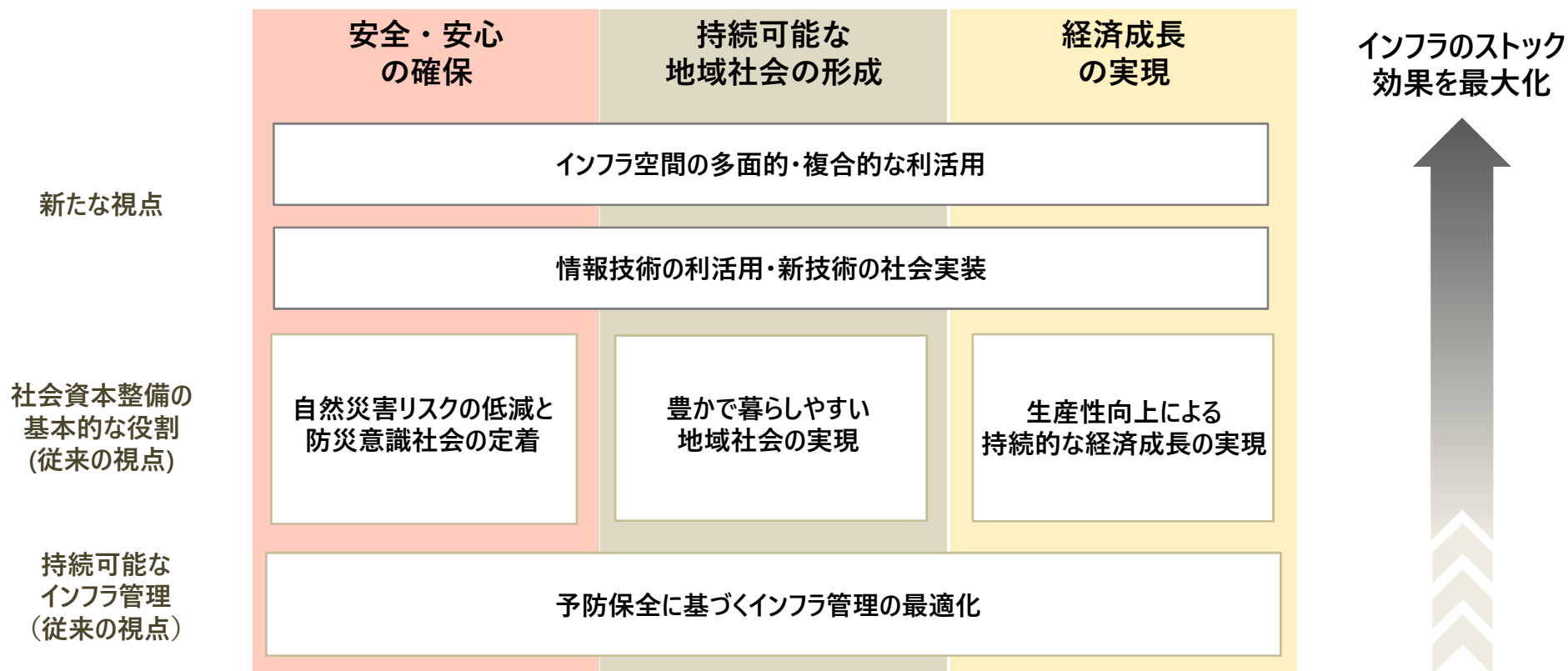


新たな時代を築く持続可能で質の高い社会資本整備

- 社会資本は、未来の国土・地域を形づくる基盤であり、その整備を通じて、**ストック効果を最大化していくことが重要**。
- **安全・安心の確保、持続可能な地域社会の形成、経済成長の実現**が社会資本整備の**基本的な役割**であり、これらへの投資を重点化することで、**ストック効果をさらに拡大**。
- **この役割を下支えするため**、これまでに整備したインフラがその機能を適切に発揮できるよう**持続可能なインフラ管理を実施**。
- **これらに加え**、社会経済やライフスタイルの多様化に対応し、**情報技術・新技術の活用やインフラ空間の多面的・複合的な利活用**といった**新たな視点を追加**することで、**新たなストック効果を発現**。

< 社会資本整備の視点とインフラのストック効果最大化の関係 >



今後の社会資本整備のあるべき姿(基本的な考え方)

- **インフラのストック効果を最大化**し、国民生活や社会経済活動を支える基盤とするためには、「賢く投資・賢く使う」を徹底し、**整備の段階のみならず、整備後におけるインフラのマネジメントの視点が重要**。

インフラの整備のあり方

整備後のインフラの活用・維持管理のあり方

第4次計画

- 安全・安心インフラによる災害等のリスクの低減
- 生活インフラによる持続可能な地域社会の形成
- 成長インフラによる民間投資の誘発、経済成長の下支え

集約・再編を含めた既存施設の戦略的メンテナンス

既存施設の有効活用（賢く使う取組）

整備
+
管理

社会情勢の変化

自然災害の質の変化

インフラの老朽化

国内外の経済状況の変化

人口減少等による地域社会の変化

デジタル革命の本格化

ライフスタイルの多様化

新型コロナウイルス感染症の拡大

第5次計画

近年の社会情勢の変化を踏まえた取組を推進

- 自然災害リスクの低減と防災意識社会の定着
- 豊かで暮らしやすい地域社会の実現
- 生産性向上による持続的な経済成長の実現

予防保全に基づくインフラ管理の最適化

新技術の活用や集約・再編等による
インフラ管理の最適化

社会経済やライフスタイルの多様化に対応した
インフラの経営的管理

- ✓ 情報技術の利活用・新技術の社会実装
- ✓ インフラ空間の多面的・複合的な利活用

取組の
深化

新たな
視点

整備
+
管理
+
利活用

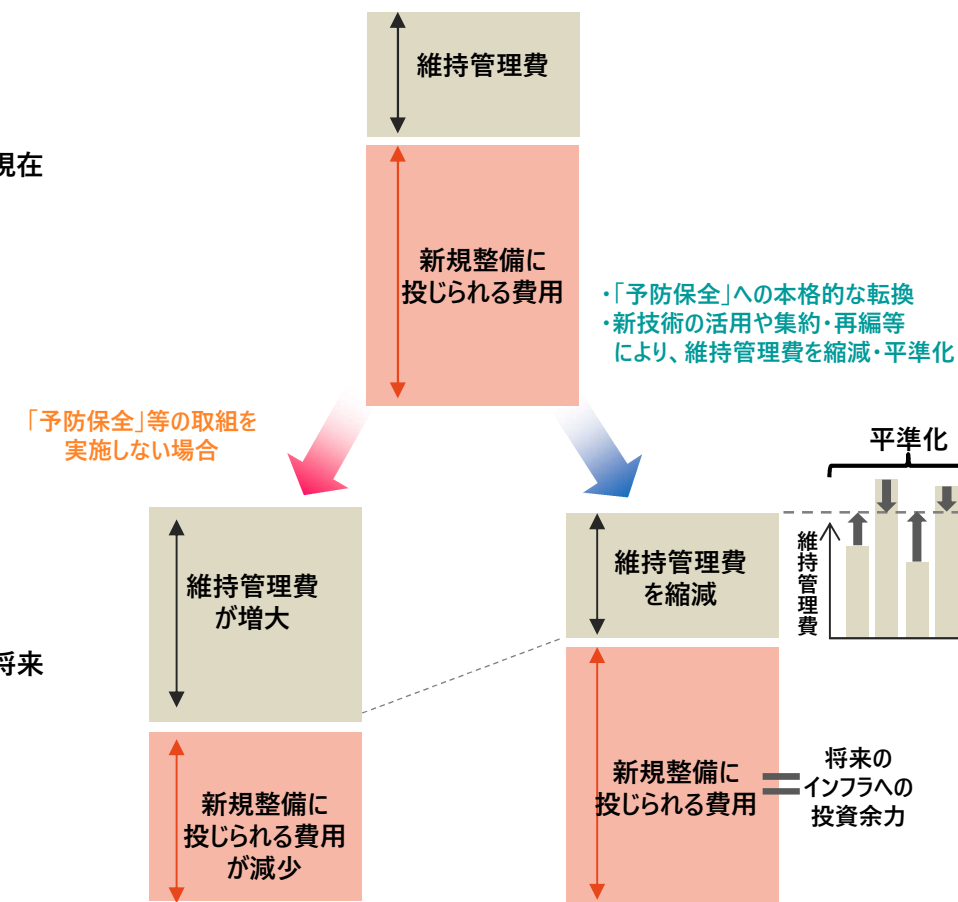
「主体・手段・時間軸」の総力を挙げ実施

- ✓ 主体 : **事業分野に横串**を刺し、国・地方公共団体・民間の**各主体による連携**
- ✓ 手段 : **ハード・ソフト一体**となった取組を実施
- ✓ 時間軸 : インフラの**整備段階のみならず、管理・利活用も含めた時間軸**で対応

- 国民生活や社会経済活動を支えるインフラの老朽化が進む中、**インフラの機能に支障が生じる前に修繕等の対策を行う「予防保全」への本格的な転換が不可欠。**
- これに加え、**新技術の活用や集約・再編等の工夫に取り組み、インフラ管理の最適化を図ることで、将来のインフラへの投資余力を確保。**

インフラ管理の最適化のイメージ

(※ あくまでイメージであり、予算額の増減を示すものではない)



新技術の活用によるインフラの維持管理の高度化・効率化

- **メンテナンス分野**において、新技術を活用した**業務の高度化・効率化**を更に加速。



鉄道トンネルにおける道路用3次元点群データ計測車両の活用(高度化・効率化の事例)



橋梁に搭載されたセンサーによる異常変異の早期発見(高度化・効率化の事例)



橋梁の損傷写真を撮影する技術(効率化の事例)

【新技術によるインフラの点検業務の高度化・効率化】

既存のインフラの集約・再編等によるインフラストックの適正化

- **集約・再編等**によるインフラストックの適正化を促進。



堤防整備、排水機能の強化に併せて樋門を1箇所に集約(集約の事例)



流域の処理場の能力を増強し、2つの処理場の機能を統合(再編の事例)

【集約・再編等の取組の例】



バリアフリーな歩道空間確保のため老朽化した横断歩道橋を撤去(廃止の事例)

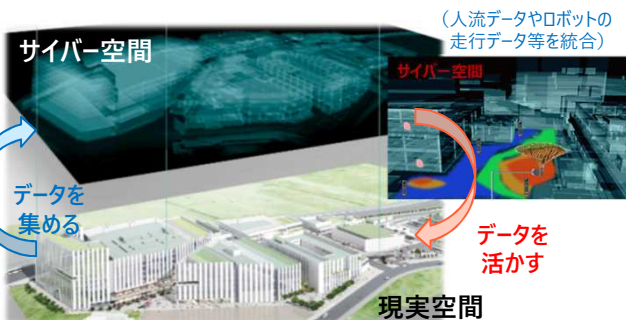
- 社会資本整備分野の**デジタル化・スマート化を社会資本整備重点計画を貫く原則として位置づけ**、情報技術・新技術の活用やインフラ空間の多面的・複合的な利活用（インフラの経営的管理）により、ストック効果の最大化の取組を更に深化させ、**令和にふさわしい質の高い生活環境の実現につなげる必要がある**。

新技術等の活用によるインフラの新たな価値の発現

- **デジタルトランスフォーメーションを軸にしたまちづくりの推進**など、新技術等を活用した社会資本整備の実施により、インフラの新たな価値を発現。

(例) まちづくりのデジタル化によるスマートシティの実現

<まちづくりのデジタル基盤の整備>



<データを活かした質の高いサービスの提供例>

スマートモビリティ



自動運転バス 自動運転車いす

交通弱者の移動手段提供

自走型ロボット



自動配送や清掃を行うロボット

新技術活用による生産性向上

他分野との連携

ストック効果
最大化

新技術等の活用

利活用の促進

インフラ空間の多面的・複合的な利活用によるインフラの新たな価値の発現

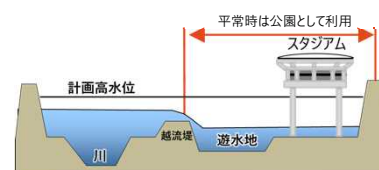
- 医療関係施設や公園施設等の都市機能を併せた治水施設の整備や道路空間の多面的活用による賑わい創出など、**インフラの多面的・複合的な利活用により、インフラの新たな価値を発現**。

(例) 医療関係施設や公園施設等の都市機能を併せた治水施設の整備

都市機能を併せた遊水地を整備



【遊水地とスタジアムが一体となった事例】

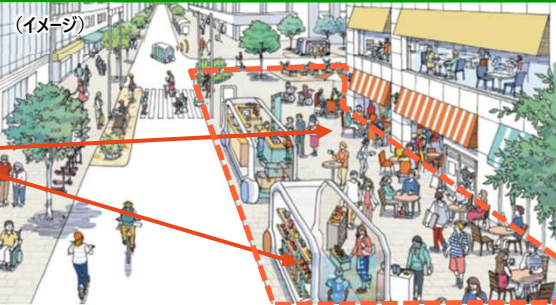


公園として利用



治水施設として効果を発揮

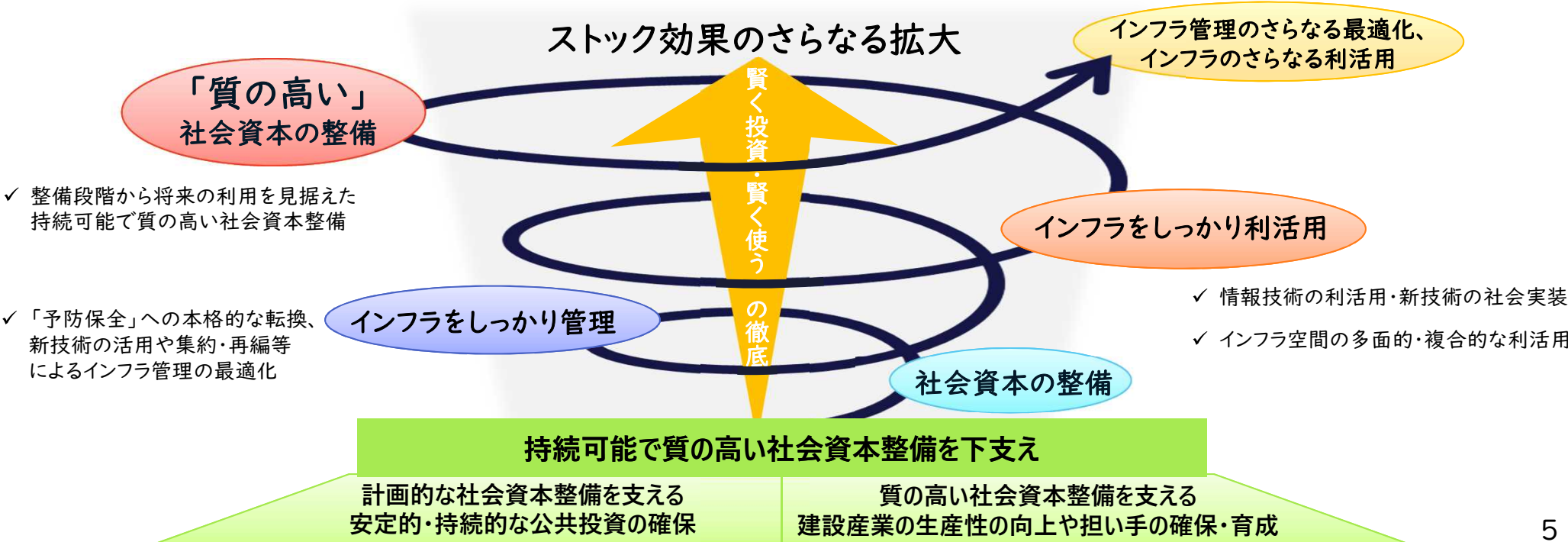
(例) 道路空間の多面的活用による賑わいの創出



曜日や時間帯に応じて道路空間の使い方を変更

新たな時代を築く持続可能で質の高い社会資本整備(正のスパイラル)

- **社会資本の整備後において**、インフラを「**しっかり管理**」するとともに「**しっかり利活用**」することで、**新たなストック効果を発現**させていく。
- こうした取組の徹底により、インフラを**世代を超えて共有する「資産」として捉える**ことで、新たな社会資本の整備段階においても、**将来の利用を見据えた質の高い整備**が行われる。それにより、インフラ管理のさらなる最適化、インフラのさらなる利活用が進み、**ストック効果がより拡大**する（賢く投資・賢く使う）。
- このように**社会資本整備の「正のスパイラル」を生み出す**ことにより、ストック効果の拡大や、国民の安心・安全、生活の質・生産性の向上が図られ、**幾世代にもわたり国民が豊かで安全な生活が実感できる国土づくりを実現**する。これは政府が目指すSDGs（持続可能な開発目標）の達成にも資する。
- また、「**正のスパイラル**」の前提となる、**安定的・持続的な公共投資の確保**や、**建設産業の生産性向上**が**不可欠**。



- 持続可能で質の高い社会資本を整備するためには、これを支える**建設産業のより質の高い産業への進化**が重要であり、中長期的な見通しのもと、**建設産業の生産性向上**を推進することが必要。
- また、**働き方改革や処遇改善**を通じて、社会資本の整備やメンテナンスのみならず**地域経済や災害時における地域社会の安全・安心を支える**建設産業の**担い手の確保・育成**に取り組む。

社会資本整備における建設産業の必要性

- 建設産業は、**社会資本整備を通じて国民生活の向上や経済の持続可能な成長を支える役割**を担う。
- また、整備されたインフラの日常的なメンテナンス等を通じて、**国民が安心してインフラ等を利用できる環境の維持や企業の事業継続性の確保**に寄与。
- 加えて、**災害時には**、最前線で地域社会の安全・安心の確保を担う**地域の守り手として、国民生活や社会経済を下支え**。



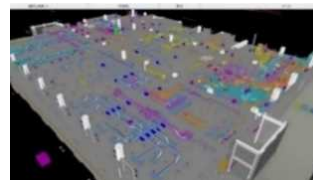
出典：埼玉県建設業協会

建設産業が目指すべき姿

- 社会経済情勢の変化に対応した質の高い社会資本整備を推進するためには、建設産業が、技術革新等を取り込みつつ、**高い生産性のもとで良質な建設サービスを提供する産業へと進化**することが必要。
- さらに、中長期にわたり社会資本整備を支えるとともに、災害時における地域の守り手として、建設産業が**担い手を持続的に確保できるような魅力的な産業へと転換**していくことが必要。

生産性向上

- 人口減少下においても良質な建設サービスを確保していくためには、**生産性向上の推進**が不可欠。
- このため、ICTやデータの活用等により、**施工管理の更なる効率化や諸手続の省人化・省力化の実現**を目指す。



【BIM/CIMモデルの活用】



【建設現場のICT化の推進】

担い手の確保・育成

- 将来の建設投資や災害発生にも対応できるよう、若年者や女性の入職を促進し、**将来の担い手を確保**していくことが必要。
- このため、**働き方改革・処遇改善**を推進し、担い手がキャリアパスを描きながら生き生きと働ける環境を構築。



【長時間労働の是正に向けた工期に関する基準の作成】



【建設キャリアアップシステムの活用】